

授業科目	日本法制史演習
演習題目	近代史料講読
担当教員	山口道弘
授業の目的	日本近代の学者が遺した漢文史料を白文で読みこなせるようになること
履修条件	1. 高等学校で漢文訓読を学んでいること 2. 予習を欠かさないこと
教科書・参考書	<p>【史料】重野安繹・成斎先生遺稿 卷十・十一（教員が配布する。）</p> <p>【参考書】</p> <p>1) 古田島洋介＝湯城吉信・漢文訓読入門（明治書院、平23）</p> <p>2) 宮本徹＝松江崇・漢文の読み方——原典読解の基礎（放送大学教育振興会、令元）</p> <p>3) 西田太一郎（齋藤希史＝田口一郎校訂）・漢文の語法（角川ソフィア文庫、令5）</p> <p>1は訓読の復習用、2は文法、3は語法の基本書である。</p> <p>4) 古田島洋介・これならわかる復文の要領——漢文学習の裏技（新典社、平29）</p> <p>5) 古田島洋介・これならわかる漢文の送り仮名——入門から応用まで（新典社、平24）</p> <p>6) 沖森卓也＝合山林太郎編著・日本漢文を読む 近世編（朝倉書店、令7）</p> <p>4～6は練習問題集にあたる。</p>
授業の計画・内容	<p>漢文（白文）の史料を読みます。担当者は置かない会読形式で行います。すなわち毎回参加者全員に少しずつ読んで貰います。従いまして、予習は毎回必要です。</p> <p>演習では高校卒業程度の漢文能力を基としてその伸長を図りますが、高校での漢文授業時間が減っていることに鑑みて、受講に先立ち上掲参考書の一つなりとも御読みになることを講師は深く希望します。</p> <p>授業時間は延長しません。</p> <p>-----</p> <p>授業計画は予定であり、学びの進捗に合わせて変更することがあります。</p> <p>1単位あたりの学修時間（45時間）の内訳（目安）</p> <p>（講義・演習の場合）授業内学修 15時間、事前・事後学修 30時間</p> <p>（実験、実習および実技の場合）授業内学修 30～45時間、事前・事後学修 0～15時間</p>
成績評価の方法	平常点による。 無断欠席はしないこと。